

氏名	井上 智代 (イノウエ チヨ)
本籍	新潟県
学位の種類	博士 (老年学)
学位の番号	博甲第 84 号
学位授与の日付	2018 年 3 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	農村部における高齢者の健康に資するソーシャル・キャピタル指標の開発

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	杉 澤 秀 博
	(副査) 桜美林大学教授	芳 賀 博
	桜美林大学教授	渡 辺 修一郎
	東京都健康長寿医療センター研究所 副所長	新 開 省 二

論文審査報告書

論文目次

序章

1. 研究の背景	1
1) 高齢者の健康状態	1
2) 日本の農村の現状	1
3) SC の概念整理と課題	1
4) SC の測定ための調査項目と高齢者の健康に関連する研究の動向	1
5) 本研究で用いる用語の定義	1
(1)SC の操作的定義	1

(2) 「農村」についての操作的定義	1
2. 本研究の目的と構成	1
第2章 研究1. 農村における健康に資するソーシャル・キャピタルの質的研究	
1. 研究の背景と目的	2
2. 方法	2
1) 対象	2
2) インタビューの方法	2
3) 分析方法	2
4) 倫理的配慮	2
3. 結果および考察	2
第3章 研究2. 農村で生活する人々の健康に資するソーシャル・キャピタル指標の開発	
1. 研究の背景と目的	3
2. 方法	3
1) 対象者およびアンケート配布方法	3
2) 分析方法	3
(1)農村 SC 指標の調査項目の検討	3
(2)分析手法	3
(3)倫理的配慮	3
3. 結果	3
4. 考察	4
第4章 研究3. 農村部ソーシャル・キャピタル指標と高齢者の健康指標との関連	
1. 研究の背景と目的	4
2. 方法	4
1) 分析方法	4
2) 倫理的配慮	4
3. 結果	4
4. 考察	5
第5章 総合的考察	
総合的考察	5

文献

論文要旨

ソーシャル・キャピタル（以下、SC）の健康影響については、一般住民だけでなく高齢者を対象として検証されてきている。しかし、使用されているSCの指標については構成概念妥当性を検証したものはほとんどない。加えて、農村部では、SCの強化を通じた健康づくりが求められるが、農村のSCの特徴を解明した研究がほとんどない。以上のような問題関心から、本研究では、農村部の特徴を生かしたSC指標の開発を目的としている。研究課題1は、農村部の高齢者に対する質的調査に基づき、健康に資するSCの概念を明らかにする。研究課題2では、研究課題1で明らかにされたSCの概念構成に基づき、指標開発を行う。研究課題3では、研究課題2で作成された指標が高齢者の健康に与える影響を、個人レベルとともに地域レベルで検証する。研究の結果、次のような知見が得られた。研究課題1については、農村部のSCが【自然との共生】【農村ならではの信頼関係の維持】【農村の社会規範を重んじる】【農村であることを活かした社会参加とネットワーク】という4つの概念で構成されることが明らかにされた。研究課題2については、研究課題1の4概念に基づき、16項目で構成される農村SC指標を開発した。この指標の妥当性・信頼性は次の通りであった。妥当性は構成概念妥当性、併存的妥当性、予測的妥当性の面から評価した。構成概念妥当性については分析モデルの適合度が基準以上であり、さらに既存尺度を基準とした併存的妥当性についてもある程度の水準以上であること、さらに、健康度自己評価、睡眠状態、老研式活動能力指標、JST版活動能力指標、外出頻度、高齢者うつ尺度という健康指標に対してもある程度の水準以上で関連していることが明らかにされた。信頼性については、クローンバックの α 係数は0.939であった。以上のように、開発された指標の妥当性・信頼性が確認された。研究課題3については、健康指標として健康度自己評価、睡眠状態、老研式活動能力指標、JST版活動能力指標、外出頻度、高齢者うつ尺度を用いた。個人レベルのSCの影響については、調整変数の影響を調整した後においても、健康度を有意に向上させる方向で影響していたこと、他方、地域レベルのSCの影響については、調整変数および個人レベルのSCの影響を調整した後において、個人レベルのSCとは反対にくつかの健康指標については健康度を有意に低下させる方向で影響していたことが明らかにされた。

総合考察として、次の点について言及した。本論文のオリジナルな点として、第1に、農村部のSCの特徴として【自然との共生】という新しい概念の存在を明らかにしたこと、第2には、【農村ならではの信頼関係の維持】【農村の社会規範を重んじる】【農村であることを活かした社会参加とネットワーク】という既存のSCの概念として指摘されたものの中でも、閉鎖的な要素のみならず開放的な橋渡し型SCの要素が含まれていることを明らかにしたこと、第3には、これまでのSCの指標については構成概念妥当性の面から妥当性を検証したものがほとんどなかったが、本論文で構成概念妥当性を確保した指標を初めて開発したことがある。しかし、解消すべき問題点も残されている。第1に、地域レベルのSCの影響が健康度に対して有意に低下させる方向で影響していたことの原因を解明すること、

第 2 に、一農村地域を対象とした研究であることから、他の農村地域を対象とした研究を行い、結果の妥当性を確認すること、第 3 には、開発された指標の項目欠測が多いことから、高齢者も回答しやすいように質問項目を平易にすることが必要であること。

論文審査要旨

既存のソーシャルキャピタル（以下、SC）の指標については、妥当性の検証が十分でないまま使用されてきた。さらに、SC は地域住民間の社会関係に焦点をあてていることから、地域の特性を考慮した指標の開発が求められるが、このような指標の開発は遅れている。本論文は、農村部に着目し、その地域特性を加味した SC の概念を質的研究によって明らかにした上で、その概念構成に基づき、妥当性、信頼性が確保された指標を開発している。老年学における SC に関する研究として優れた内容をもつものである。しかし、以下の点で問題がある。第 1 に、分析例数は多いものの、調査回収率がかなり低い調査から得られたものである、したがって、母集団の特性を十分に反映したのではなく、そのことが結果にバイアスをもたらしている可能性がある。第 2 に、対象地域が高原野菜で有名な地域であり、本論文で開発された SC の指標が他の農村地域にも適用できるか慎重に検討する必要がある。第 3 には、農林水産省の報告では農村の SC を扱っている、すでに農村用に尺度（質問票）が存在するのになぜ新しく開発するのかを明確にする必要がある。第 4 には、地域レベルの SC の健康影響は、健康度を低下させる方向を示しているが、そのことについての言及が弱い。第 5 には、SC 指標を構成する項目への無回答が多い。以上のような問題点があるものの、博士論文としての水準に達していると判断し、博士論文として合格と判定した。

口頭審査要旨

本論文は、以下の 2 点で新規性がある。第 1 に、農村におけるソーシャル・キャピタル（以下 SC）の指標を、構成概念の検討から開始し作成したこと、第 2 に、開発した SC 指標が個人レベルおよび地域レベルで高齢者の健康指標にどの程度影響していることを解明したこと。

質疑の中では、地域レベルの SC の健康度へのマイナスの影響の考察、研究結果の一般化の問題、既存の尺度と比較した場合の長所などについて指摘がされた。井上氏からは、マイナスの影響の理由について補足分析の結果、他の地域での妥当性の検証の必要性、新しく農村用の尺度を開発することの意義、既存の尺度との違いについて説明がなされた。一部、今後の課題として残された問題はあるものの、以上の指摘についてほぼ的確に回答がなされた。以上により、審査員全員一致で合格と判定した。